

# 甲武信ヶ岳山行記録



千曲川信濃川源流地標

甲武信小屋

朝の山頂で

目的地	甲武信ヶ岳	期 日	平成22年5月21～22日 (金・土)
山人	笠原正雄・澄子	特 記	東アルプス、信濃川の源流となる山を訪ねる。

地点名	時刻	記 事
<b>21日</b> : 快晴、気温が高い		
毛 木 平 P	午前 11:00 着	自宅 6 時発、走行 290 km。広大な高原野菜畑を経て、舗装の立派な大駐車場。
歩 き 出 し	11:50	駐車車両は 9 台。早い昼食と準備。日差しが強く、菅笠で歩き出す。すぐに十文字峠への道との分岐。右の千曲川源流遊歩道に行く。
山 道 に 入 る	12:15	ここまで森林作業道が続いている。左に千曲川源流が流れる。
慰 霊 碑	12:30	昭和 13 年集中豪雨による山津波で林業作業員 13 名が殉職。林業会社の慰霊碑。
河 原 で 休 む	1:15～1:25	流れに降りられる所で休む。日差しは強いが湿気が無く、日陰に入れば爽やか。
ナ メ 滝	1:35	これまで 1 人の下山者とスライドしたのみ。ここで歩荷が追い越して行く。
上山夫婦と会う	1:40	夫婦がアイゼンを持参しなかったので諦めて下ろうとしている。先ほどの歩荷が貸すから上ろうとなった。
歩荷が水を汲む	1:55	この水が一番旨いと言う。NHKの「小さな旅」で紹介されたと聞く。先ほどの夫婦も追い付いて来て、アイゼンの履き方を教えている。先に行く。
左岸から右岸へ	2:05	木を束ねた橋で渡る。登路に氷化した雪が混じる。
ストック歩行へ	2:30～2:35	雪が多くなり、ストックを持つ。再度左岸へ。その手前でチェストを直していると歩荷が先行して行った。源流地まで 0.35 km の標し。積雪の登りだが、ポコポコ穴で足の置場に苦労する。そして頻りに抜かる。
源 流 地 標	2:50～2:55	残雪に千曲川信濃川源流地標と書かれた標柱が立つ。与板小校歌を歌う。
分 岐	3:15	国師ヶ岳金峰山分岐。山頂まで 30 分の三叉標柱。尾根に上がり夏道となる。しかし 10 分もしないうちに再び雪が現れる。
ガ レ 場	3:40	ガレ場に出る。間もなくと思われるが、立ち止まり 5 分休み、笹団子を食べる。
甲武信ヶ岳山頂	3:50～4:20	雲にとけ込むが富士山と思われる。遠くは霞んでいるが金峰山のオベリスクが見える。近景で御座山・両神山。少し離れて八ヶ岳。徳ちゃん新道を上山の若い山女 2 人が来た。西宮からという年配単独 (67 才) が十文字側から上って来た。
甲武信小屋	4:35 着	山頂からの下りは氷化雪が所々にあって、それを避けるように降りる。お茶を貰う。テーブルに置かれていた秩父地酒をコップ 1 杯 500 円、美味かった。水は 1 リットル 50 円で買える。
小屋内 自炊スペース 食堂で宴会	6 時頃より	数人がストーブを囲んで談話中。幕営の外国青年。遅れて前記夫婦来る。自炊場は我々のほか山頂で一緒になった若山女 2 人。一緒に食事する。
山頂で夕焼け	7:10	ピッケル代わりにケンスコを借りて上る。氷化雪は硬くて突き刺しても割れない。外国青年、山女、俺の 5 人で夕焼けを見るが、雲ではっきりしなかった。
ギター演奏	7 時半頃	小屋に戻り、再び食堂へ。若い小屋番がギターで歌う。焼酎無料サービスを受け、すっかり飲み過ぎる。
就 寝	9:10	酔い酔いで 2 階に上り眠る。少ない人数で楽々使えた。ガラスの窓枠ががたついている。隙間風が入り夜中は寒かった。
<b>22日</b> : 晴れのち薄曇り		
起 床	4:15	山頂へ向かう途中で陽が昇る。但し東側は樹林で、その間から見えるだけだ。
甲武信ヶ岳山頂	4:40	山頂手前からやや霞んではいるものの富士山が大きく見えて来た。朝の山頂は外国青年、山女、我々ほか 2 名。昨日よりはっきりしていて、甲斐駒・仙丈が見える。北の遠くにかろうじて双耳峰が見えるが、谷川岳が燧ヶ岳だろうか。
下 山 へ	5:10	上山口を左に見送り、右へ下る。すぐさま樹林の中のズボズボの雪道。昨日より状態が悪い。足の置場によっては膝まで抜かる。

三 宝 山	5:55~6:10	登って雪の無い広場に出て三角点で休む。鳥獣保護区看板は埼玉県とある。
夏道が多くなる	6:30	うんざりする雪の道もやっと終わりになって来た。10 分後、暑くなってきて、重ね着のシャツを脱ぐ。シラビソの幼木が多い。
尻 岩	6:55	樹林の登り降りが続く。この後かなりの登り返しで大汗をかく。
岩 場 で 朝 食	7:20~8:00	鎖付きの木梯子を登り、ようやく右の展望が開けた。迎え酒のビールを飲んで朝食。国師ヶ岳から縦走の幕営若者が追い越し下山して行った。
武 信 白 岩 山 下	8:14	ここも登り返しで山頂を巻き終わると道標がある。右手の山頂へは侵入禁止。
大 山	8:50	この手前で単独上山者とスライド。八ヶ岳を望むピークに上れば川上村の野菜畑が見える。隣に大山山頂の道標がある。景色を眺め少し休んでから下る。岩場の鎖2ヶ所。ほかカラマツ林の下りに岩場下りが混じる。
十 文 字 小 屋	9:30~10:10	手前で白泰山方面分岐。大ザックの単独が上って行く。直前で引水タンクから溢れる水を汲む。小屋番は用があり下山しているとの置手紙があり無人。樹木に鹿による食害防止のビニール袋が掛けられている。湯を沸かしカップラーメンを食べる。男女3人隊が上って来た。これから上山幕営のようだ。シャクナゲがつぼみを赤く膨らませ始めた。
女 小 屋 番 と 会 う	10:45	九十九折れの樹林下りから沢に沿う下りとなる。この前後で数人とスライド。背負子にダンボール2箱に鉈を載せて女性小屋番が上って来た。
シャクナゲが咲く	11:10	ここ1箇所だけに数本の木にアズマシャクナゲが咲いていた。
新緑のカラマツ林	11:15	明るい霧囲気的林、緑が萌える。ハシリドコロを撮影。
枯れ沢を左右に	10:50	朽ちた木が方々に倒れている枯れ沢を渡る。カラマツ林は見上げればきれいだが、下の地面では荒れた感じがする。しばらくして左から水音が聞こえてきた。次いで、左岸に渡る橋があったが、脇を渡渉する。5分後重ね着半袖を脱ぐ。
千曲川源流狭霧橋	11:25	渡り終えると入山者カウンターがある。すぐに千曲川源流遊歩道と合わせる。
毛 木 平 P	11:30 着	およそ 50 台がある。2 台バスがあり。1 台は仙台ナンバーで「21~24 日：甲武信ヶ岳と金峰山から瑞牆山縦走」(アミューズトラベル) とある。この旅行社だが、昨夏、トムラウシで8人の凍死遭難事故を起こした会社である。 R141 佐久海ノ口温泉で入浴し、週末高速料 1,000 円で帰宅する。

山菜採りはするが、山登りはしない妻の姉の旦那さんが、何故かたびたびこの山の名前を口にする。更に、俺の住む町を流れる信濃川の源流であれば、まんざら因縁が無い訳ではない。それが今山行の動機である。

いかに関東の山とは言え、標高が 2,475 メートルともなれば、上部はまだ雪が残っているだろうと思っていたが、予想以上に残雪歩きが長かった。その雪質も表面が固まった「もなか」状態で、時々ぬかりながらの歩行でうんざりするほどだった。軽アイゼンを持って来いと小屋の忠告だったので持参した。しかし、氷化した雪の上は使えば有効と思ったが、それも長くは無く、何とかこなせたため、一度も履かなかった。

上山ルートは緩やかな登りから急登となるが、殆ど登降は無い。一方、下山ルートは結構下ろされたのちの登り返しが多い。いずれも樹林の中を歩きが長く、展望の利くところは僅かであった。

登山口までの車の走行距離は、雲取山と同じ程度だが、こちらの方が長く感じた。